

会議録

| | |
|------|--|
| 会議名 | 平成29年度第1回目黒区障害者差別解消支援地域協議会会議録 |
| 開催日時 | 平成29年6月5日(月) 午後6時30分から午後8時30分 |
| 場所 | 目黒区総合庁舎E会議室 |
| 出席者 | <p>(委員) 岩崎 北本 田島 百瀬 原 團村 内田 土屋 富樫 吉田 山田 岩原 田村 荘司 天田 黒澤</p> <p>(幹事) 人事課長 人権政策課長 子育て支援課長 教育指導課長 教育支援課長 障害福祉課長</p> <p>(事務局) 障害福祉課障害福祉管理係</p> <p>(その他) 障害施策推進係長・主査 身体障害者相談係長 知的障害者相談係長 精神障害福祉・難病係長 発達支援係長</p> |
| 議題 | <p>1 新委員・新幹事 自己紹介(資料1)</p> <p>2 平成28年度 下半期障害者差別解消に係る相談事例について(資料2)</p> <p>3 目黒区障害者計画のためのアンケート調査結果について(資料3)</p> <p>4 その他</p> |
| 配布資料 | <p>次第</p> <p>資料1 目黒区障害者差別解消地域支援協議会委員名簿</p> <p>資料2 目黒区における障害者差別解消法にかかる相談事例(平成28年度下半期)</p> <p>資料3 目黒区障害者計画改定に伴うアンケート調査の実施結果について</p> <p>その他配布資料 目黒区障害者計画のためのアンケート調査結果(平成29年3月)</p> |
| 議事概要 | <p>1 新委員・新幹事 自己紹介(資料1)</p> <p>今回委嘱を受けた新委員及び新幹事がいるため、全員(事務局含む)が自己紹介を行った。</p> <p>【新委員】 百瀬まなみ 田村康二郎 荘司るみ 田畑美香</p> <p>【新幹事】 人事課長(谷合) 子育て支援課長(篠崎) 障害福祉課長(保坂)</p> <p>2 目黒区における障害者差別解消法にかかる相談事例(平成28年度下半期)について(資料2)</p> <p>障害福祉課長が事例を読み上げ、その後意見交換を行った。</p> <p>会 長 事例について、質問やご意見はあるか。</p> <p>委 員 事例1について、この文章では、謝ればいと読めてしまう。苦情調整委員の場合は納得したからいいとはならない。差別解消法の立場からはどうなのか。何らかの再発防止策は検討されているのか。</p> <p>幹 事 謝罪をした上で、当該事業が就労支援を含めて行っていることを説明し、本人の理解を得られた。なお、本件では就労を勧めてはいない。再発防止策として研修等を行い、障害に対する理解を深めていく。</p> |

委員 「あなたの医療費は税金から賄われています」との発言が障害者差別につながるということであるが、合理的配慮の焦点はどこにあるのか。

幹事 本人は生活保護受給者であり、実際は配慮に欠ける発言ではなかった。就労を強要されたと誤解を受けたが、就労についても生活保護ワーカーとして問題のない発言であり、強要はなかったと聞いている。これらを説明して本人の了解を得たものである。

委員 今回報告された事例が5件しかないが、実際にはこの10倍も20倍もあるのではないか。差別にしても虐待防止にしても、啓発していくしかない。障害理解のための努力が必要だ。目黒区独自で解決できるものもあれば、都や国を巻き込まないといけないものもある。そこをどうしていくのが大事だ。特に事例3と同じような要望は多く耳にする。どう解決していけばいいのか考えていく必要がある。

会長 事例3について、学校の送迎バスに家族の同乗ができなくなった理由をご存じの方はいるか。

委員 特別支援学校の児童・生徒は広域から通学して来るので、スクールバスの定員は基本的に全員分を用意している。しかし看護師や医師の同乗はない。

医療的ケアが必要な子どもの場合、子どもの命が最優先されるため、医療従事者が乗車していないバスには乗車できないというのが都の見解である。

学校の通学に福祉サービスの介護タクシーやガソリン代を使用することと、教育の通学バスを利用することの二つのサービスが存在する。これらを同時には受けられないが、実際には切り分けることのできないものである。

通学バスについては、時間的、心理的、経費的な負担が大きいので、学校の実情を知っていただけるよう努力しているところである。

会長 単純ではない複雑な理由があるということのようだ。

委員 他の道府県の状況はどうか。

委員 交通経費だけでなく、福祉サービスによる介護タクシーを利用しているところもある。福祉サービスとの線引きが必要と考えている。国の方でも動いているようだが、できるだけ情報提供はしていきたい。

委員 タクシーを利用した場合の経費を減免するとか、都で財政的支援をする余地はないのか。

会 長 情報提供いただける方はいらっしゃらないか。

委 員 実情を把握して解決策を出していく必要がある。計画改定に向けたアンケートにはそれに該当するような答えは載っていないのか。

会 長 送迎だけではなく、根本的な問題があるのではないか。医療的ケアを必要とする子どもの問題は、目黒区だけで解決できるものではない。このようなお子さんが大勢いる。いろいろな声を上げていくことが大切だ。

委 員 他の自治体の地域協議会と情報を共有・連携すれば意見が埋もれないのではないか。

幹 事 自治体の約9割が地域協議会を立ち上げているが、始まったばかりで連携できるまでに至っていない状況である。今後共有できる事例がいくつかあれば連携を考えていきたい。

委 員 区長が動かないと難しい。特別区長会で取り上げてもらう必要がある。団体要望を行政に伝えていく。区長会を使えば方向性を作り出せる。

幹 事 特別区長会を通じて、国に要望や意見を出せる機会はあるので、検討していきたい。

会 長 本地域協議会は年2回しか開催する予定がない。自立支援協議会でも医療的ケアの子どもの問題が取り上げられている。様々な場に出された意見を含めて、議論を深められるといい。

委 員 訪問籍について、具体的にどのようなものか教えてほしい。

委 員 訪問教育の一般的なイメージとしては、通学が困難な児童・生徒の家庭や入院先に教員が訪問し、授業を行っている。病院を訪問する場合は、ベッド脇で授業する。訪問頻度は児童の病気の状態にもよるが、1人の教員が児童1人につき週3日・2時間、3人まで担当している。通学の児童・生徒が200人程度に対して訪問授業を行っている児童・生徒は10数名だ。スクーリングもあるが、病状に配慮しながら進めており、週1回通える子どもは少ない。

委 員 インターネットの利用状況はどうか。

委 員 ICT機器の活用については、東京都特別支援教育推進計画の第二期計画で位置づけており、タブレットやインターネットを使用した遠隔教育を試行で行っている。光明学園は、この新しい試みを全国に発信する役割も担っている。

事例2の問題については、一番身近な区で考えていく必要がある。

幹事 本協議会で事例を集積し、業界団体へ伝えていくことで、取組が進んでいくこともある。各区の協議会が情報を共有して、次の取り組みに生かしていくことが大切だ。

会長 本協議会での検討を積極的に進めていくには年2回の開催頻度では少ない。

委員 事例4について、区から問い合わせで解決したわけではないが、内閣府や文科省に問題を伝えていることは重要だ。これは成果として残している。

事例5については、学校内のことだけでなく、さまざまな方面に係る問題であることが明らかになった。6行目に記載のある「通学の際の支援」でまちなかでの住民の関わりや「他の学生への周知」といった問題など、どういうことに配慮する必要があるのか、教育の在り方を考えていく必要がある。

会長 大学は対応が遅れているが、この事例は、どう配慮すればいいのか学校を動かした例だ。

委員 事例5は視覚障害の人の問題であるが、視覚障害の場合は人によって見え方が違う。全盲と弱視では勉強の仕方も異なる。通学や学校内を安全に歩くのは容易ではない。安全に歩くにはお金がかかる。IT環境等が利用できる人とできない人がおり、IT環境を整えるための補助金が受けられる場合もあるが、バージョンアップが必要になったり対応が追いついていかない。

新しい学校では校内に点字ブロックが整備されている。点字ブロックがあることで「どうして設置されているのか」「誰が使用するのか」を考えてもらう、知ってもらう機会になる。

このところ、駅のホームから転落する事故が報じられているが、それは以前からあった。でも報道されたことで、声をかけてもらえるようになった。渋谷駅や池袋駅では、時々放送が流れて「白杖をついた人がいたら声をかけてください」と呼びかけている。

駅のホームで、点字ブロックの上に荷物を置かれてしまうと、それを避けたことで進む方向が違ってしまふことがあり、まさに欄干のない橋の状態だ。ホームドアの設置が急がれるところだ。

障害者は情報の入手が困難である。障害のある人をどう受け入れるのか、みんなに知っていただくことは大切だ。

委員 通学環境の厳しさを考えると、盲導犬を使ってはどうなのか。

委員 ホームからの転落事故3件のうち2件は盲導犬がいた。盲導犬がいれば絶対

に安心ということではない。盲導犬はこちらから指示を出し、それに従って行動しているため、危険を察知していなければ指示を出せないこともある。盲導犬を一匹育てるのに約300万円の経費が掛かり、日本には現在900匹程度しかおらず、盲導犬を希望する待機者が多数いる。犬を連れていても危ないときや困っているときは声をかけて欲しい。

委員 自由が丘商店街振興組合はこういったことに力を入れている。産業能率大学も協力してくれている。私の団体で月桂樹の植樹リレーをしたが、大変協力していただいた。300人ぐらいの方に集まっていた。

委員 自由が丘商店街振興組合では、1年程前に「心のバリアフリー」というNPO団体と知り合う機会があり、障害者、高齢者、妊婦の方に関するセミナーを開催した。バリアフリーはこちらが考えるよりもできていない。時間もお金もかかる。まちとして、店として、何ができるのか、どう手を差し伸べていくのか、イベント等を通して考えていくきっかけにしている。

ハロウィンでも子どもたちと障害者が一緒にパレードをした。産業能率大学の学生によるまちの安全安心を守る活動では、道案内などをしてきているが、普通救命講習を受けたり、ユニバーサル検定を受けたりしている。何かあったときにうまくサポートできるように、少しずつ取組を続けて、町にも気持ちよくお買い物ができる雰囲気を広げている。

委員 中目黒の商店街も協力的だ。昨年末の目黒川のライトアップイベントに障害者を招待してくれた。障害を持っている人たちがまちのあちこちで全面に出ていくことが大切だ。

委員 相談事例を蓄積して事例集を出していくのか。事例にはいいことがたくさん出ている。ホームページにアップしてはどうか。商店街の事例も発信していくことが大切だ。いいことや変化したことは外に出していくことが大事だ。

幹事 事例としてホームページに掲載していきたい。区内の取り組みを公開し、広く知っていただくことを今考えている。都や内閣府のホームページはあるが、区としても独自の発信をしていくことを考えていきたい。

委員 教育現場はこんながんばっているんだ、という実情を知ってもらったり、盲導犬についても取り上げる等、その時々で大事なことをピックアップして出していけばいいのではないかな。

会長 分かりやすく発信していければ、地域に対して貢献できるのではないかな。後日事務局と相談しながら進めていきたい。ホームページについては、目黒区の

独自の活動として、地域協議会として出していきたい。次回の協議会でもう1回、具体的にいい方法がないかディスカッションさせていただきたいと思うがいかがか。(全員了承)

委員 事例5に関連して、自分の行った大学では発達障害への理解はなかなか得ることができなかった。大学でのサポートがどうなっているのか知りたい。

委員 Eテレの番組「バリバラ」でやっていたが、この人にはこの文字がどう見えるかなどを紹介していた。大学によっては取組を行っているところがあると聞いている。

会長 学生支援室等で様々なサービスを提供しており、カウンセラーも配備している。学生によっては、つながってくる人もいるが、情報が届いていない人もいる。当事者が来て言ってくれることが近道だ。支援室でもフルにサポートできるかという、それは難しい。かえって本人のストレスになることもある。以前よりは進んできたが、まだ十分とは言えないのが現実だ。

委員 全教室をハード面で改修することは難しいので、行動範囲は限られてしまう。大学の取組が進んできたのはまだここ5年、10年のことだ。

委員 事例5で取り上げた学校側の配慮について、この姿勢は素晴らしい。本校でも車いすの生徒を大学に連れて行く事業を始めた。これは本人たちに将来を見せるために行っている。大学の支援室には大変貢献してもらっている。小学校、中学校、高校にも支援室的な機能を持ってもらいたいのだが。ノウハウを蓄積させていくいい事例だ。こういう事例を発信することが、きっかけづくりになる。

委員 最近、朝のあいさつ運動を行っていて感じることだが、お母さんたちが愚痴や想いを言い合える場が少ない。ホームページを作ったら、母親がつぶやく場を設けるなど、障害児を支える親の気持ちを受け止める場所があるといいのではないか。目黒区で生活して楽しいね、となるにはそれを支える人がいるということだと思う。

委員 障害をもつ児童と言っても、障害の重い子、軽い子など様々だ。自力登校できる子どもには自力で登校してもらおう。障害のある子たちにまず教えるのは、人に助けを求めること。困ったときに人に助けてもらえることは大事だ。

委員 障害をもつ子どもを育てる親として、娘を授かったことにむしろ幸せを感じている。確かに手間はかかるが、それも自然なことと受け止めており、愚痴る

ことはない。ただ、大変なこともあり、それを誰かと共有したいという気持ちになることはある。

委員 私が所属する団体には会員が250名強おり、毎月1回、親の会を開催している。井戸端会議的な話し合いは大事で、しゃべることですっきりした表情で帰宅する人もいる。お母さん同士のアドバイスにもなっている。ストレスを抱え込まないようにやるのが大事だ。

委員 障害がある人への声のかけ方など、知っているようで知らないことも多い。盲導犬についても、今後研修していく予定だ。

会長 もっといろいろな人に障害者のことを知ってもらいたいと思う。今日配付された資料に「わかってください」があるが、この冊子を通して、私は盲導犬センターに行くことにつながった。

委員 この会議の議事録を作ると思うが、その要約版を作成して、そこに「ちょっといいこと」欄を作って、プラスアルファのメッセージを発信してはどうか。

会長 本地域協議会のホームページを作ったらいい。

幹事 ホームページに地域協議会の会議録や配付した資料を掲載している自治体もある。資料や情報の出し方について、どうまとめるといいのか、障害福祉課として検討していきたい。

委員 自分が関係している団体では、募金活動を通じて盲導犬を贈っている。100人ぐらいのメンバーが原宿駅前募金を呼びかけた。障害者のスポーツ大会にも協力している。次回はその資料を持ってきたいと思う。

委員 目黒区は、毎年8月に平和祈念の集いを行っており、また広島に子どもたちを派遣している。こういった活動は差別解消につながる。福祉協会を作ろうという話もあるし、世界平和について載せるのもいいと思う。

3 目黒区障害者計画のためのアンケート調査結果について（資料3）

調査対象及び回収状況や周知方法等について、障害福祉課長が資料に基づき説明を行った。また、新設したアンケート項目等について紹介した。

【新設項目】

P53～P57 問 32-1～5、P93 問 24、P104～107 問 33-1～4、P108 問 34

【公開場所】 区政情報コーナー、図書館、障害福祉課で閲覧できる。また、区のホームページにも掲載している。

(障害福祉課長) 次回までに目を通してもらい、ご意見をいただければと思う。

4 その他

(1) 会議録について

幹 事 平成28年度に行われた協議会議事録については、会長・副会長が内容を確認し、承認を得る方法とすることでいかがか。

会 長 会議録の確定についてご了解いただけるか。(全員了解)

会議録をホームページで公開している自治体もあるが、その取扱いについては次回検討していくとしたい。

(2) その他

会 長 発言していない委員の方のご発言をいただきたい。

委 員 いい取組もあり、ホームページでの発信を期待したい。事例5では民間事業者が区内ということもあり、ここまで対応してもらえたが、区外の民間事業者であった場合は相談に乗ってもらえるのか。

幹 事 個別の中身にもよるが、区から該当する自治体に話をしてつなぐことはできる。

委 員 ホームページ等で発信していく場合、資料2の相談事例などは解釈を付け加えなければ真意が十分に伝わらないと思われる。地域協議会で協力して追記する必要があるのではないか。

(幹事・事務局)

協議会中に伝えきれなかった事柄があれば、後日電話やメール、FAXで受け付ける。また、事例集については国のホームページに掲載されているので、区独自で作成するかは今後検討する。

会 長 本日の協議会はこれで閉会とする。

以 上